令和６年度

学校評価報告書

山梨市立岩手小学校

令和６年度　学校評価について

山梨市立岩手小学校

本校における学校評価について、次のように実施しましたので報告いたします。

１　実施の内容及び実施方法等について

（１）自己評価の実施

学校教育目標「自ら学び、心身共に健康な子どもの育成」の達成に向け、「自ら学ぶ子どもを育むため　確かな学力の育成」「心身共に健康な子どもを育むため　豊かな心の育成・健やかな体の育成」「地域と共に子どもを育むため　地域や世界で活躍できる人材の育成・家庭や地域との連携」「働き方改革」という４つの重点目標について、それらを１７に細分化した項目で、自己評価をおこなった。

（２）児童・保護者・教職員への学校教育アンケート調査の実施

昨年度に引き続き、今年度もGoogle Formsを用いて学校教育アンケートを行った。児童・保護者・教職員に対して、言葉は分かりやすくしてあるが、同じ内容のことを問うようアンケートを実施した。それぞれの捉え方にどのような違いがあるか、肯定的評価の最も高いものを４、最も低いものを１と数値化し、平均値を比較した。また、肯定的評価の割合についても数値化し、児童・保護者・教職員の評価を比較した。

（３）職員会議での検討

職員による自己評価及び、三者の学校教育アンケートの結果から、今年度の成果と課題を明らかにした。また、昨年度から課題となっている項目について、重点化する事項を洗い出した。

（４）学校評価結果検討会の開催

重点化した事項について、それぞれどのような手立てが出来るのか、その改善策を検討した。今後の方向性と具体的な取組を考え、来年度の方向性を全職員で確認した。

（５）学校運営協議会での学校関係者評価

教職員による自己評価及び、三者の学校教育アンケートの結果をすべて示し、学校評価検討会で出された、今後の方向性と具体的な取組に対して、ご意見をいただいた。

（６）保護者への公表

分析・考察したことをもとに、成果と課題を明示し、来年度の方向性を示した。また、学校教育アンケートの数値結果を保護者へ公表した。

２　集計結果の考察

（１）教職員による自己評価から

学校教育目標を意識して教育活動に取り組むことが出来ている。自己評価として、成果を感じている部分や不足を感じている部分はあるが、全体的に肯定的な意見が多いことが数値に現れている。達成状況や今後の改善・充実方策を文章表記してもらったところを見ると、とくに、家庭学習の習慣化やあいさつの励行、メディア使用時間について課題と感じていることがわかる。また実際の数値として現れている。

（2）保護者アンケート・児童アンケートの結果から

児童・保護者の認識と教職員の認識が同じ項目が多い。大きく異なる項目は「読書について」で、保護者の評価が低い。昨年度の反省から、読書に触れる機会を多く設定したため、児童・教職員の評価は昨年より上がっているが、家庭では読書をする機会が少ない児童もおり、保護者の評価は低いままであると考えられる。親子読書など、家庭での読書活動の推進も必要であると感じた。他にも「あいさつについて」も開きが大きい。また、「ネット使用時間」については、昨年度同様肯定的評価が低い。引き続き、学校側として具体的な取り組みを考えていくことが必要である。

3　今後の方向性

今年度の学校評価から課題とされた事項について、来年度の重点項目として、具体的な取組を行っていく。

「家庭学習（自主学習含む）」については個に応じたきめ細かな対応、ＩＣＴの利活用を引き続き進めていく。自分で考え、進んで取り組める自主学習となるようにする。そのための意識付けとして、昨年度に引き続き「岩手っ子家庭学習チャレンジカード」の取組を行う。家庭学習における自分の現在地を、見える化し、継続した積み上げを学校と家庭とが連携しながら進めていく。

豊かな心の育成として「読書活動」は、「朝読書」、「読書カード」、「ビブリオチャレンジ」等の取組を継続して行う。また「家読」も実施し、読書を習慣化できるように取り組む。「あいさつ」は、児童総会で話題に取り上げるなど、児童会を中心にあいさつについて意識する機会を設け、気持ちよい自然なあいさつが出来るように根気強く指導を継続する。

基本的生活習慣の確立では、保護者・職員ともに課題と感じているのが「ネット使用について」である。家庭とも協力しながら取り組み、改善していく。

4　まとめ

岩手小学校では、今までの反省を生かし、「進んで自ら考え行動できる児童」を目指してきた。教育活動全体を通して、児童が主体となって考え、実践させる一手間をかけることを共通理解の下、子ども達の成長を育んできた。指示を待つのではなく、失敗してもよいから、自分で考えて行動することや、子ども達の意見を大切にすることを心がけてきた。その成果が、日頃の学校生活や、各種学校行事等にも現れていた。少人数ということで、一人一人がもつ役割や責任が多いが、進んで行動できる児童が多い。今後も任せて取り組ませ、認め、褒めながら子どもの成長を促していきたい。

令和6年度 教職員による自己評価

学校教育目標 「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」 評価指標ごとに,【4:「とてもそう」3:「そう思う」2:「あまり思わない」1:「思わない」】で集計

重点目標		番号	評価項目	評 価 指 標	自己評価平均値	教師の具体的方策
自ら学ぶ子どもを育むために	○確かな学力の育成	1	学習者を主体とした授業づくり	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け,授業実践と改善を積み上げ,授業力の向上に努めている	2.9	・児童が自ら課題を見つけ、自ら解決に向かえるよう仕組んだか ・授業を振り返り、改善を行ったか
		2	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現	児童一人一人の学習状況を把握し,個に応じた内容や指導法で,協働的な学習を行っている	3.3	・机間指導を行い、常に児童の学習状況を把握したか ・他者の思考を参考にしたり、他者への助言を与えたりする展開を仕組んだか
		3	ICT端末を中心とした機器の活用	児童の発達段階を考慮しながら、ICT機器や環境を最大限に生かした授業の充実を図っている	3.2	・大型モニター等の機器やデジタル教科書を適時使用したか ・クラウド環境を活用した学習を仕組んだか
		4	学習習慣の確立	児童に基本的な学習内容の習得や家庭学習の習慣が身につくように取り組んでいる	3.1	・朝活動を活用し、基本的な学習内容の定着を図ったか ・「岩手っ子の学び」を利用したり、家庭学習の方法を共有したりしたか
心身共に健康な子どもを育むために	○豊かな心の育成	5	人権教育の推進	児童に自分の大切さや他の人の大切さを認めることのできる人権感覚を涵養している	3.6	・互いを認め合える雰囲気づくりに努めたか ・自分の良いところに気づかせ、自己有用感を育んでいるか
		6	道徳教育の充実	自己を見つめ,自己の生き方についての考えを深め,道徳的な判断力,心情,実践意欲と態度が育つ道徳教育を行っている	3.6	・年間指導計画や全体計画に基づき教育活動全体で、道徳教育を行っているか ・授業参観等で、道徳科の授業を行っているか
		7	読書活動の推進・習慣化	日常的に児童が本に親しむ機会を設けて,しなやかな心の育成を図っている	3.7	・日常的に児童が読書に親しむ取組を行っているか ・朝活動の「読書」を活用し、読書の習慣化を図っているか
		8	いじめ・不登校・暴力のない集団づくり	児童理解を深め,心身の問題の早期発見,早期対応・早期解決に努めている	3.7	・児童が安心して学校生活を送れるような学級づくりを行っているか ・組織的な相談や支援を行っているか
	○健やかな体の育成	9	体力向上への取組	児童の運動習慣、朝食摂取、十分な睡眠等、望ましい生活習慣の定着を通じて体力の向上を図っている	3.5	・休み時間等における運動遊びを奨励しているか ・学校の課題を踏まえた「健康・体力づくり一校一実践」に取り組んでいるか
		10	健康教育の推進	各教科や領域と関連させて、健康に関する指導を行ったり、食に関する課題を設定して取り組んだりしている	3.4	・児童が自らの健康について意識し、適切な行動をとることができるよう健康に関する指導をしているか ・給食センターの便りや動画等を活用し、食に関する指導をしているか
		11	安全教育の推進	児童が自分で自分の身を守る能力を育むことができるよう安全教育にとりくんでいる	3.5	・交通安全、生活安全、災害安全を網羅した安全教育を行い実効性のある訓練を行っているか ・安全点検や環境整備を行い、学校環境を改善しているか
地域と共に子どもを育むために	○地域や世界で活躍できる人材の育成	12	英語科教育の充実	4技能5領域の言語活動を着実に実施し、コミュニケーション能力を育成している	3.4	・英語に慣れ親しむ活動を通し、体験的に学習させているか ・パフォーマンス評価を計画的に行っているか
		13	地域人材の活用や地域との連携	地域の人材を教育活動に活用したり,教職員や児童が地域行事に積極的に参加したりして、郷土への理解を深めている	3.4	・地域の人材を活用する授業を企画・運営したか ・児童に地域行事へ積極的に参加・協力させ、郷土への関心を深めるよう努めたか
		14	キャリア教育の推進	「やまなしキャリア・パスポート」を活用し、教員が対話的にかかわることで児童のキャリア形成を促している	3.2	・行事や学期始め、学期末等の節目の時期に、目標や振り返りの場を設定したか ・児童と対話的にかかわり、目標設定や振り返りの支援をしたか
	○家庭や地域との連携	15	家庭・地域への情報発信と連携	授業参観やお便り等を通して,児童の様子を家庭に伝えたり、気軽に相談できる雰囲気作りに努め,連絡を取り合ったりして連携している	3.8	・学校の教育活動や児童の様子をおたより等を通じ、保護者や地域に情報発信したか ・家庭との連絡を綿密に行い、児童の様子を共有したり、相談したりしたか
		16	関連機関との連携	教育相談や特別支援教育等の外部機関と連携し、多角的な支援を展開している	3.6	・SCの活用を推進したか ・課題を学校が抱え込まず、関係機関と連携し、支援をしたか
働き方改革		17	業務改善に向けた工夫の実施	勤務時間外の在校時間短縮を意識し、効率的に業務を行う等の働き方改革に努めている	3.4	・前例踏襲ばかりではなく、見直しを行い業務改善を図ったか ・効率的に業務を行うことができるよう意識的に自らの働き方を見つめたか

令和6年度　教職員による自己評価（記述意見）

学校教育目標「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」 評価指標ごとに,【4:「とてもそう」3:「そう思う」2:「あまり思わない」1:「思わない」】で集計

重点目標		番号	評価項目	自己評価平均値	達成状況○や今後の改善・充実方策▲
自ら学ぶ子どもを育むために	○確かな学力の育成	1	学習者を主体とした授業づくり	2.9	○児童の言葉でめあてやまとめ、振り返りを行い、児童主体の学びに近づけることができた。 ○子供たちに考えさせる場面を仕組むような授業を行うことができた。 ○ICTを活用し、友達の意見も参照しながら学習することができた。 ▲一斉授業ではなく、児童が主体となり、児童が一番忙しくなる授業を目指す必要があると感じる。 ▲授業の振り返り・教科や単元の中で課題解決の授業を仕組むことは課題がある。
		2	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現	3.3	○授業の中で、意図的にペア学習を取り入れ、意見交換や課題解決の仕方を伝え合う場を設定した。 ○少人数学級ならではの個に応じたきめ細かな学習指導ができた。 ○少人数という環境を活かし、一人一人に発表の場を与えることができている。 ▲学級の人数が少ないので、協働的な学習には工夫が必要。 ▲伝える力・聞く力はやや弱いように感じるので、他者と関わる授業づくりを学んでいきたい。
		3	ICT端末を中心とした機器の活用	3.2	○クラウドを活用した端末の利用を推進している。またAIドリルも積極的に活用している。 ○AIドリルを宿題や朝学、隙間時間といった時間にうまく活用し取り組むことができた。 ○canvaやfigjamなどを活用し、相互参照しながら学習に取り組む場面を仕組むことができた。 ▲クラウド環境を活用した学習を仕組むことは、教員側にまだ課題がある。 ▲支援学級児童に関しては系統的な指導はできていなかったと思う。
		4	学習習慣の確立	3.1	○家庭学習チャレンジカードを活用して、家庭学習を見える化し、学習習慣の確立を図っている。 ○家庭学習発表会を行い、他の児童の取り組みを知り児童が自分の学習に生かすことができた。 ○朝活動の時間帯に、課題のある学習の定着や個別にプリントを用意して指導するなど工夫した。 ○各学年ごと、自主学習の取り組みを共有する機会を設けることができた。 ▲タイピングの習得も計画的に取り入れていきたい。
心身共に健康な子どもを育むために	○豊かな心の育成	5	人権教育の推進	3.6	○全職員が、全校児童の担任という意識で、担当学年を超えて信頼関係を築こうとしている。 ○あたたかい言葉がけをこころがけ、意識的に褒めたり、よいところを見逃さずに伝えることができた ○児童が日々安心感が感じられるような声掛けや爽やかな挨拶などを行った。 ○学校全体として、お互いを認め合える雰囲気ができていると思う。 ○保健室では、自分中心的な考えから他者の気持ちや違う考え方に気づけるような対応をしている。
		6	道徳教育の充実	3.6	○道徳の授業だけでなく、教育活動全体で、個に応じたきめ細かな道徳教育を行った。 ○授業参観で全学年道徳を実施し、保護者を巻き込んだ道徳教育を行った。 ○指導計画に基づき、行事等とも結びつけ、教育活動全体で行うことができていた。 ○学校行事等を通して、友達と協力する姿勢や、何かをやり遂げる達成感は生まれた。
		7	読書活動の推進・習慣化	3.7	○朝読書の徹底、電子書籍yomokkaの活用、ビブリオチャレンジの実施、貸し出しランキング、児童によるおすすめの本紹介など、様々な取り組みを実施し、読書に親しむ機会を増やした。 ○電子書籍yomokkaを有効活用し、空いた時間に読書ができるようにした。 ○図書館も計画的に活用し、習慣的に本を読める機会を増やした。 ○司書の先生と図書館担当の教職員が協力して、読書の習慣化を図る取り組みができた。 ○家庭学習チャレンジカードに読書時間を記録することで、子供たちも意識し、教員も実態を把握できた。
		8	いじめ・不登校・暴力のない集団づくり	3.7	○些細な出来事や変化も職員間で共有し、未然防止に努めた。また、個で抱え込まず、組織的に対応した。 ○児童の言葉に耳を傾けるのと同時に、日頃から児童とのコミュニケーションをとり、変化を読み取れるようにした。また、安心安全な学級作りを行うと共に、SCや養護教諭と連携をして対応することができた。 ○先を見通して、長期目標や中期目標を目指してできることを少しずつ指導した。また、保護者との関係性を崩さないよう心がけることで児童の情緒の安定を図るようにした。 ○トラブルが起きた際には、教員同士で情報共有し、その都度相談しながら解決に取り組めた。 ▲不登校児童への対応については今後も継続して検討が必要だと思う。
	○健やかな体の育成	9	体力向上への取組	3.5	○マラソン大会や縄跳び大会に向けて、昨年以上に体力づくりの機会を増やした。 ○教室にいがちな児童にも声をかけ、様々な種類の遊びができるように声かけを行った。 ○晴天時は外遊びをするように声掛けをし、望ましい生活習慣を送る指導を折に触れて行いました。 ▲学校の課題（体力テストの結果を受けて）を職員が共有し、健康・体力づくりに取り組めるとよいと思う。 ▲児童会ルールの、HTは外で遊ぶということをさらに意識づけたい。
		10	健康教育の推進	3.4	○給食時に、栄養や体作りのための話をし、できるだけ残さずバランスよく食べられるように指導した。 ○巡回の栄養指導の先生の指導を児童と一緒に聞き、健康の大切さについて考えることができた。 ○はやおきはやねチャレンジカードの取り組みで、児童の生活の様子を教員が把握できた。 ○給食動画を流すことで、食への興味や関心を深められた。 ○養護教諭が中心となり、児童一人一人の課題を把握し、健康教育や食育を計画的に実施できた。
		11	安全教育の推進	3.5	○毎月安全点検を実施し、不具合については即対応した。 ○避難訓練では、めあてと振り返りを行い、自分の身は自分で守るように安全教育の啓発を行った。 ○高学年として、登校時にどのようなことに気をつけるかを話し、自分の命だけではなく、下級生を安全に連れてくることができるようにした。 ○様々な場合を想定した避難訓練を実施することができた。 ○児童が安全で快適に過ごせるよう、充実した環境整備が実施されている。
地域と共に子どもを育むために	○地域や世界で活躍できる人材の育成	12	英語科教育の充実	3.4	○英語を楽しく学べる活動を多く取り入れている。 ○個の発表などを積極的に行い、一人一人のパフォーマンスをみとっている。 ○英語に慣れ親しむ活動を体験的にさせている。 ○評価項目を分け、発表の際には担任も含めてパフォーマンス評価を行うことができた。
		13	地域人材の活用や地域との連携	3.4	○いきいきや世代間ふれあい活動など地域の方々の力を借りて、多くの行事を実施できた。 ○地域の行事で児童が太鼓演奏を披露したり、お世話になっている地域の方々を学校に招き感謝の会を行ったりし、地域の方々とふれあう機会が数多く計画されている。また地域を知る機会にもなっている。 ○ECHOES学習の農業体験も計画的に行うことができた。 ○公民館活動や地域の行事に児童も参加している様子がみられるので、継続していけたらよい。 ○自分たちの住む岩手や山梨に対する愛郷心を大きく育める授業が行われている。
		14	キャリア教育の推進	3.2	○学習発表会を実施して、児童が発表する機会を設けた。 ○適切な時期にキャリアパスポートを使用することができた。 ○キャリアパスポートを使いながら、目標や振り返りの場を設定し、今後につなげていく指導・支援を行うことができていた。また児童の実態をふまえ、発達段階に応じた振り返りをする機会や発表の場を設定することを意識して取り組んだ。 ○学期や行事ごとにそれぞれの成長や頑張ったことを「キャリアパスポート」を活用して、記録をつけ、児童のキャリア形成に生かしている。
	○家庭や地域との連携	15	家庭・地域への情報発信と連携	3.8	○学校だよりや学年だよりを情報サイトに掲載し、保護者や地域に情報発信をした。また、ながら見守りや、行事への協力については、区長に依頼して、地域に回覧を回した。 ○連絡帳、授業参観、保護者への電話連絡等で、保護者と児童の様子を共有することがしっかりできた。 ○家庭との連絡を密に行い、児童の様子を伝えたりして保護者の不安をなくすようにした。 ○毎月の受診に合わせ，その月の児童の頑張りや進歩が見られた内容を写真と文章で保護者に渡した。特に写真は言葉よりも数倍重みがあり効果的であったと思う。 ○地域や保護者の方が関わる学校行事を多く取り入れた。
		16	関連機関との連携	3.6	○SCについては全校児童の面談を実施したり、保護者にも利用を積極的に進めたりして、SCの活用を推進した。 ○特別支援教育コーディネーターが中心となり、特性のある児童に関しては、関係機関との連絡調整を行った。 ○SCやその他外部機関と連携し、児童や保護者に必要な支援を行うことができた。 ▲課題のある児童（昨年度から後退傾向）は家庭にも支援が必要なので、福祉関係のSSW等、関係機関と連携を取っていく必要がある。 ▲不登校児への対応については、家庭環境の問題が大きいと思うので、市の子育て支援課など外部機関との連携が今後も継続していく必要がある。
働き方改革		17	業務改善に向けた工夫の実施	3.4	○業務の精選と効率化、DX化、教科担任制の推進、教職員の児童に関わる時間の確保など、様々な働き方改革や見直しを積極的に行い、業務改善を推進した。 ○授業の持ち時間を調整し、以前より勤務時間内に業務を行うことができるようになった。 ▲予定がわかる内容は計画的に準備を進めたり，空き時間を活用して能率的に業務を進めるように心がけたが，慣れない職務やICT関連の内容には時間を費やした。 ▲その日に行うことを書き出し、優先順位を決めて業務を進めているが，時間外勤務が多くなってしまうことや、効率的な方法を見いだせないこともあるため、改善していきたい。 ▲校務分掌は一部の先生に大きな負担がかかっているのが現状なので、次年度は改善していきたい。

令和6年度 学校教育アンケート ＜三者比較＞

A:とてもそう思う(4)　B:そう思う(3)
C:あまり思わない(2)　D:思わない(1)　とした場合の値です

番号	質問内容	平均値 児童	平均値 保護者	平均値 職員	肯定的評価(A+B)% 児童	肯定的評価(A+B)% 保護者	肯定的評価(A+B)% 職員
1	お子さんは，学校で友だちと仲良く活動したり，遊んだりしていると思いますか。	3.8	3.6	3.8	100.0	96.3	100.0
2	お子さんは，みんなで学習するときの望ましい態度(忘れ物をしない，落ち着いて先生や友達の話を聞く等)が出来ていると思いますか。	3.0	2.9	3.3	88.9	81.5	100.0
3	お子さんは，授業の内容がわかっていると思いますか。	3.1	3.0	3.2	92.6	88.9	100.0
4	お子さんは，宿題や自主学習など家庭学習を進んでしていますか。	3.1	2.9	3.2	81.5	70.4	100.0
5	お子さんは，読書に親しんでいると思いますか。	3.1	2.6	3.3	74.1	51.9	81.8
6	お子さんは，まわりの人に進んであいさつをしていると思いますか。	3.3	2.9	2.5	81.5	74.1	45.5
7	お子さんは，生命を大切にする心や他人を思いやる心，善悪の判断が身についていると思いますか。	3.5	3.3	3.5	100.0	100.0	100.0
8	お子さんは，自分の良いところや友達の良いところを認めていると思いますか。	3.5	3.3	3.5	96.3	100.0	90.9
9	お子さんは，基本的生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯など)が身についていると思いますか。	3.2	3.0	3.1	81.5	77.8	90.9
10	お子さんは，ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど，自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか。	3.1	2.8	2.8	77.8	70.4	81.8
11	お子さんは，運動に親しみ，体力が向上していると思いますか。	3.4	3.1	3.2	96.3	81.5	81.8
12	先生は，子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか。	3.7	3.3	3.3	100.0	96.3	100.0
13	英語の授業では、先生は，子どもの学習状況に合った方法で、英語に慣れ親しむ活動を取り入れてくれていると思いますか。	3.7	3.1	3.5	96.3	88.9	100.0
14	先生は，子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれていると思いますか。	3.9	3.3	3.5	100.0	96.3	100.0
15	先生は，お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか。	3.6	3.3	3.6	100.0	85.2	100.0
16	お子さんの話や授業参観や学校行事，学校・学級だよりで学校の様子がよく伝わっていますか。	3.3	3.3	3.5	85.2	100.0	100.0
17	学校は，環境が整備され，子どもたちが安全に生活できていると思いますか。	3.6	3.4	3.6	96.3	100.0	100.0

平均値の、青数字は昨年度と比べ上がったもの、赤数字は昨年度と比べ下がったもの、黒数字は昨年度と同じもの

… 高評価
… 低評価

令和6年度 学校教育アンケート <記述意見>

【保護者意見】(主な意見を抜粋してまとめました) AとBについて

◇AとBについて

- 1 全校学年関係なく仲良く遊んでいる様子がよく見られる。(5)
- 1 学校に行くのを楽しんでいる。よく学校の様子を楽しそうに話してくれたり、友達の話を聞くことがある。(4)
- 4 チャレンジ週間をやることで自分から学習する習慣ができたと思う。(2)
- 5 借りてきた本を家でも読んでいる姿を目にする。
- 5 宿題をする前や時間のある時は自ら進んで読書する姿を見るようになりました。
  内容を理解しているかは定かではないのですが本と向き合うようになった事は成長を感じます。
- 8 いつもお友達のよい所を家で話してくれる。
- 10 学校で決められた時間を過ごしている事で私生活でも決められた時間を守る事ができている。
- 11 ハッピータイムで身体を動かした話を聞くと、特に運動を楽しんでいたと思った。
- 12 子供が持ち帰ってきたノートや先生が記載してくれる連絡帳を見たり、宿題の出し方を見るとそう感じる。
- 14 宿題等を見ていると普段からタブレットに触れ勉強している事が良く分かります。使い方もとてもスムーズになってきています。(2)
- 15 子供がそのように感じているから。
- 17 交通ルールを守っている。(2)

◆CとDについて

- 3 復習をしないので出来ていた事も新しい課題が入ってくると忘れてしまいます。しっかりと身につくように復習をするように家庭でも指導したいと思っています。
- 5 家で読書していない。読書を好きになるような何かがあればと思います。(5)
- 10 時間があればユーチューブ等を見ている。
- 13 実際にどのようなことを学んだのか親に伝わらないから。
- 2,4,6,9,15 個別懇談の先生とのお話からそう感じました。
- 2,9 本人をみていていつも気になっているので。

◇ご意見欄…(保護者意見をまとめました)

・遅刻や休みが多いクラスです。去年の方がよく先生との楽しい話もしてくれて休みがちのクラスも楽しんでいました。
・このまま続けていただきたいと思います。

【教職員の意見】

◇AとBについて～成果

- 1 学年関係なく休み時間にみんなで遊んでいる姿が見受けられるからです。(3)
- 1 1年を通して、子供たち同士のトラブルはほとんどなかったように感じる。異学年と遊ぶ際や、運動会の取り組みを見ても子供たちにお互いに声をかけあったり、励まし合ったりして学校生活が送れていると思う。
- 1 係活動等で上級生が下級生の面倒をよくみていると感じるため。
- 5 電子書籍の導入、ビブリオチャレンジの実施、児童によるおすすめの本紹介など、読書に触れる機会を増やした。
- 8 小規模校ならではの全校みんなが仲良しを体現していると感じるから。
- 12 本に親しむ機会が多く設けられ、読書をあまり好んでいなかった児童も、興味を持って読書活動を行い始めている。電子書籍で、隙間の時間に読書をすることができた。校内研究などでアプリの幅広い使用方法などを知り、活用することができた。
- 14 ICT端末を使い、まとめたり、発表したりすることが、学習のいろいろな場面でできるようになってきているから。(2)
- 17 ブランコ後ろの木を剪定し、安全にブランコが乗れる環境を整えたり、運動会前には校庭の凹凸をなくすために土を盛り、児童が転ばないように整備したりと、安全を守るための環境整備が十分なされていると思うためです。

◆CとDについて～課題

- 6 朝のあいさつの元気がない、学校でこちらから先にあいさつしてもこの様子なら、地域できちんとあいさつできているとは考えにくい。児童会が中心となって継続して取り組むなど、自分たちから進んであいさつしようという雰囲気をつくらせたい。(4)
- 8 友達のことについて相手に強く言ったり、友達の話を聞けない場面があったりします。

◇ご意見(○良いところ、△良くないところ、▲次年度への課題)

○地域とのつながりが強く、地域全体で子どもたちを育もうという雰囲気を感じる。これからも、地域からの協力を仰ぎながら、地域のためにも何かができる学校づくりを進めていけるとよいと感じる。職員の出入りが多いので、持続可能な体制づくりも大切だと感じる。
○校内研究の時間に本校の課題に沿った研究ができているのがとてもよいと思う。ビブリオチャレンジなど
○本校の特色である太鼓は、児童も積極的に取り組む様子、また異学年間の教え合い・学び合いが見られる大変有意義な取り組みであると思います。今後もこの伝統を負担のないように続けていけたらと思います。
○前の質問でも記入した学年の壁がなく全校で遊んだり活動したりする点に加え、運動会の準備など係活動や行事で児童が主体となって積極的に動いていることは本校の大きな魅力であると思います。
△先生によっていいことと駄目なことが違い、子供たちが混乱する場面があります。教師間で情報を共有し、指導の仕方は違っても方向は同じ方向で指導していく必要があると思います。本校は人数が少ないので子供たち一人一人の特性も共通理解した上で学校全体で指導に当たっていけたらもっと良い教育につながると思います。
▲視野や考え方等を広げるために、学習や行事等で、他校との交流を増やしていけるとよい。
▲中学校への進学時を考え，多人数で学習や活動する体験(たとえば今年度の芸術鑑賞など)を意識的に計画していったらよいと思う。児童も新鮮で喜んでいたようなので。
▲〈校内研について〉今年は、①家庭学習、②読書活動、③成果発表会の3つのワーキンググループに分かれて、研究を進めていったが、どれか1つに絞って一人一人がいろいろな学校の実践を調べて、情報を共有して進めていくというように、1個の質を上げることを中心に進めていってもよかったのではないか。どの活動も他の行事等に追われながらの提案で、研究しながら進められていたかというところでは、疑問がある。また、ICTの活用の仕方については、学校全体でもう少し共有できるとよかったと思う。canvaやfigjam、Googleの機能などお互いの実践を共有したり、使い方を知ることができるような時間を作る。
〈太鼓演奏について〉来年度以降の時数の割り方と、太鼓演奏のあり方(どのレベルまで完成させるか)
〈運動会〉子供たちの実態や職場の体制を考慮しながら、内容を検討していく。
〈マラソン大会〉コース選択制(今年のやり方)を来年度以降も続け、昨年度の結果を踏まえて子供たちがコースを変えたり、目標を新たに設定することができればいいと思う。
〈児童の実態について〉不登校児への対応、またそれを踏まえた子供たちの学校体制の組み方。

令和６年度学校評価の分析結果と今後の方向性

学校長が提示した学校経営方針に基づき、学校教育目標の達成に向けて、教育活動を進めてきた。また、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとしての歩みは４年目となり、地域団体との活動を教育課程に位置づけ活動を続けてきた。昨年度から推進してきた地域学校協働活動もさらに進展して、地域や学校外と連携した活動を、昨年度以上に行うことが出来た。また、教育ＤＸ化も推進してきた。

そんな中、教職員の自己評価や児童・保護者・教職員のアンケート結果から、本年度の学校運営の成果と課題が明らかになってきた。

以下に本年度の成果と課題点について記した。課題点については、具体的な対策を検討し、目に見える形や行動にして改善し、この学校評価を効果的な学校運営に資するようにしていきたい。

１　確かな学力の育成

〇成果
・教育活動全体を通して、少人数の良さを生かし、きめ細かな指導が行われている。一人の児童に対する支援や指導も手厚く、誰一人取り残すことがないよう個に応じた指導が行われている。
・学習に対しては、授業だけでなく、朝活動も活用し個別支援を行うなど、基本的な学習内容の定着を図っている。
・ＩＣＴ機器の活用では、一台端末が導入され４年目を迎え、どの職員も授業で活用できていて、発達段階に応じて子ども達も充分に使いこなしている。
●課題
・家庭学習や自主学習への取り組みなど、基本的な学習習慣の確立に課題がある。各クラスで取組を行ってはいるが、今後学校全体として学習意欲の向上に向けた取組が必要である。
・教師主導ではなく、児童が主体的に取り組む授業への転換をすすめる必要がある。
・授業においては、継続してＩＣＴ機器の活用をすすめていく必要がある。

方向性
・家庭学習（宿題・自主学習）の取り組みを、「家庭学習チャレンジカード」を利用して見える化し、進んで家庭学習に取り組めるよう指導を継続する。
・自学発表会等を通して、個々の取組を認め合い、互いに高め合う。
・引き続き、きめ細かな、個に応じた学習指導を続けていく。さらに、朝学習を計画的に行い、基礎基本の定着を図る。
・授業展開を再構築し、ＩＣＴ機器の活用を取り入れた、児童主体の学習への転換を図る。

２　豊かな心の育成

〇成果
・命を大切にする心や、他者を思いやる心、善悪の判断はしっかり育まれている。先生方が熱心に児童一人一人に寄り添った指導を行っていることが、児童・保護者のアンケート結果にも、数値として表れている。
・自分のよいところや、仲間のよいところを認める心も育まれていて、道徳心もしっかり身についている。先生方が、教育活動全体を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育もうとしている表れである。
・「読書」については、昨年度の反省から読書に触れる機会を数多く設けたことで、児童アンケートでは肯定的意見が高くなった。保護者のアンケートでは依然として評価は低か

ったが、学校で読書をする機会を数多く作っていることは伝わっている。今後も、引き続き読書の習慣化をはかっていく。
●課題
・教職員からあいさつをすると、あいさつを返すことは出来るが、自分から進んであいさつするまでには至っていない。アンケートからは、児童の肯定的評価は高いが、保護者・教職員の肯定的評価は低く、差を感じる。児童会が中心になって子ども達に伝えてきたが、今後は保護者や地域も巻き込んで取り組む必要がある。

方向性
・児童会が中心になって、あいさつの取り組みを継続して行うとともに、保護者や地域も巻き込んですすめていく。
・今年度に引き続き、朝読書、ビブリオチャレンジ、児童によるおすすめの本の紹介など、読書に触れる機会を設定する。また家読の取組を強化する。
・教育活動全体を通して道徳教育を推進し、引き続き授業参観で道徳の授業を実施する。

３　健やかな体の育成

〇成果
・健康指導、食育指導等、計画的に実施していて、子どもたちの健康への意識を高めることができている。また、ＨＴ(中休み)や昼休みの外遊び、マラソン大会や縄跳び大会に向けて、体を動かす機会を増やし、体力向上を図った。
・安全教育として、防災・防犯訓練を計画的に実施することが出来ている。
●課題
・肥満傾向の児童が見られるので、全ての児童が楽しく体を動かすことができる指導の工夫を行う必要がある。また、引き続き家庭と連携して健康指導・食育指導を推進していく。
・ネット・ゲームの時間管理が上手に出来ている家庭とそうでない家庭の差が大きい。また、アンケートでも保護者・教員ともに肯定的意見が低い。引き続き、お便りや学年部会等を活用し、学校と家庭で連携を図る。

方向性
・お便りや学年部会で、インターネットやメディア使用について話題に取り上げ、保護者への啓発を引き続き行っていく。また、外部講師の招聘も引き続き行う。
・体力向上については、外遊びを引き続き奨励し、日常的に体を動かすことができる取り組みを仕組んでいく。
・肥満傾向への対策については、家庭とも連携し、健康指導・食育指導を進める。

４　地域や世界で活躍できる人材の育成

〇成果
・地域の方との交流や、地域行事への協力は、長年継続して行ってきたことにより、その仕組み自体が上手く出来上がっている。今後は、岩手応援隊の活用などを通して、地域に学校と関わりを持ってもらう取組もさらに推進していく。
●課題
・キャリア教育については、児童の実態を踏まえ、児童が自分でたてた目標を意識させる機会を増やす必要がある。

方向性
・今後も、学校地域協働活動を推進して、地域全体で子ども達を育んでいく仕組みを確立していく。また、安全・安心で信頼される学校作りを進めていく。
・岩手応援隊(岩手小学校支援ボランティア)の活用を推進していく。
・自己存在感・自己肯定感・自己有用感を育むように、子どもが主体となり目標設定と達成を繰り返す取組を行う。

５　働き方改革

〇成果
・時間外在校時間をグループウェアで管理してきたが、学校平均としては月３０時間程度であった。月４５時間を超える職員は、４月は８名と多かったが、それ以外の月では、０～２名であった。年間を通して、月８０時間を超える職員は０人であった。時間外在校時間は、昨年度より減少している。
〇日課時刻表の見直し、職員会議等の簡略化、校務の学校ＤＸ化もすすめることができた。今後も、業務改善・働き方改革を進めていく。
●課題
・小規模校のため教職員が少なく、１人の職員の校務分掌が多くなっている。時間外在校時間は職員によるばらつきがある。過去の資料の活用を積極的に行ったり、先を見据えて計画的に業務を進めたりするなど、業務改善を行っていく。

方向性
・本校の実態を踏まえて、学校ＤＸ化や働き方改革をさらに推進する。
・日課時刻表再編により生み出した放課後の時間を有効活用し、児童の指導を充実させる。また、働き方を見直し時間外在校時間を意識させる。

６　児童・保護者・教職員のアンケートから

〇成果（平均値・肯定的評価ともに、三者のうち二者以上が特に高い評価をしたもの）
・「学校で友達と仲良く活動したり、遊んだりしていると思いますか」←平均値・肯定的評価ともにすべて高い評価
・「先生は，子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか」←昨年度に引き続き高い評価
・「先生は、お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか」←昨年度に引き続き高い評価
・「学校は、環境が整備され、子どもたちが安全に生活できていると思いますか」
●課題（平均値・肯定的評価ともに、三者のうち二者以上が相対的に低い評価をしたもの）
・「まわりの人に進んであいさつしていると思いますか」
・「ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど、自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか」←この項目は昨年度同様に低く、引き続き対策が必要であることがわかる

◎学校教育アンケート総括

・平均値が３．０以上（中央値は２．５）を達成された項目と考えると、全体的に達成された項目が多い結果が出ている。保護者の記述意見を見ると、『全校学年関係なく仲良く遊んでいる』『学校の話を楽しそうにしてくれる』『タブレットを使って学習している様子が見られ、使い方もスムーズになった』といった肯定的な意見が多い。また、保護者の認識と教職員の認識が同じ項目が多い。
　しかし、「読書」に関してはかなり違っており、『読書する姿を見るようになった』と答えている保護者がいる一方、多くの保護者はできていないと考えている。学校では、昨年度の学校評価の結果から、「読書」に関しては課題として捉え、読書の時間を確保したり、読書に触れる機会を増やしたりしてきた。そのため、児童・教職員の評価は昨年より上がっており成果が出ていると考えている。一方家庭では、読書をする時間が少ない児童もおり、保護者の評価は低いままであると考えられる。
　また、「あいさつ」「ネット使用時間」についても、児童はできているとの認識であるが、保護者・教職員、つまり大人の目からすると、しっかり相手に伝わるようなあいさつはできていない、ゲームやネット使用時間が多い、と考えていることがわかる。この２つについては、引き続き児童本人が意識できるように、学校だけでなく保護者も巻き込んだ取組を継続していく。
　今年度の課題解決に向けて取組を考えていくが、学校だけでなく、家庭でもよい効果が現れるように、保護者と連携しながら取り組む必要がある。

令和６年度学校関係者評価

２月２６日（水）の第３回学校運営協議会において、「令和６年度学校評価の分析結果と今後の方向性」を示し、今後の学校運営の方向性について、ご意見を頂き、承認していただいた。各項目で出された意見については以下の通りである。

１　自己評価・学校教育アンケートについて

・「読書」については、児童・教員と保護者の評価に差があるが、保護者は家庭での自分の子どもを見て評価しているから低くなっているのかもしれない。家庭に帰るとテレビやゲームなどの誘惑が多く、読書に向かわない児童もいるのではないか。昨年度の反省から、学校では本の紹介活動、ビブリオチャレンジなど、読書に触れる機会をたくさん取り入れているので、児童と教員の評価は高くなっている。読書を好きになるには時間がかかるので、継続していくことが大事。ほんのたくさんある場所に行くのも読書活動の推進には効果的であると考えられる。
・児童を主体とした授業づくりについては、これからさらに考えていく必要がある。小学校は基礎基本を押さえることが多いので難しいところもあるが、前向きに取り組んでいく。
・あいさつについて評価が低いが、子ども達は地域ではよくあいさつを返してくれる。自己評価が低く出ているのではないか。
・自己評価が厳しめのように感じる。結果を参考にして是正していくことは大切。三者の違いがあるところや、評価の低いところには手立てを加えていくことが大事。

２　学校評価の分析結果と今後の方向性について

〇確かな学力と自立する力の育成

・少人数の学校の良さを生かし、先生方がきめ細かな指導をおこなっていると感じる。特に端末の操作などにはかなり慣れてきていると感じる。引き続き継続していってほしい。

〇豊かな心と自己実現を図る力の育成

・児童に任せ、児童が主体となって活動する経験を積み重ね、達成できた喜びや自信をつけさせることが大切である。引き続き取り組んでいく。

〇健康な生活を送るための資質・能力の育成

・あいさつについては、児童の考えと、保護者・教職員の考えにずれがあるので、対策をたてる必要がある。

〇安全・安心、信頼される学校作り　働き方改革

・保護者との信頼関係がしっかりと築けている。

３　全体を通して

・成果発表会や６年生を送る会を見て、児童が一生懸命取り組んでいることがわかった。発表をしている児童だけでなく、聞いている児童の様子も良かった。また感想の内容に温かさを感じた。
・児童数は少ないが、みんな仲良く、深い人間関係が形成されている。そこが小規模校の良さ。進んで手を貸すなど思いやりの気持ちがきちんと育っている。
・岩手小学校支援ボランティア(岩手応援隊)の活動も継続して進めていく。
・岩手小学校の取り組みは、地域と連携しながら行っているものが多く、地域とのつながりが強く深いので、今後も継続していって欲しい。
・岩手小学校は、一人一人に応じたきめ細かな対応ができている。

令和7年3月吉日

保護者各位

令和6年度学校評価の結果と今後の方向性

山梨市立岩手小学校

本年度の教育活動を振り返り、職員による自己評価及び保護者・児童・教職員を対象に、Google Forms によるアンケート調査を行いました。アンケート結果は裏面に記しました。アンケート調査の結果では、全体的に良好の評価をいただきました。

以下に、自己評価及びアンケート結果に示された本年度の教育活動の成果と課題点に基づいた今後の改善への方向性を記しました。保護者・地域の皆様と一層連携し、子どもたちの充実した学校生活を支援していきたいと思います。引き続き、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いします。

【成 果】

① 充実した学校生活

学校生活については、ほとんどの職員・児童・保護者から良い評価をいただいています。今後も引き続き、学校が魅力的な場所になるよう、児童が主体的に取り組む教育活動を展開して参ります。また個に応じたきめ細かな対応と、ICT を活用した、児童が主体となる授業づくりにも引き続き取り組んでまいります。

② 豊かな心の育成

小規模校の良さを活かし、一人一人の児童にきめ細かく対応していると、児童・保護者から良い評価をいただいています。また、自己肯定感や他者を認める心などがしっかりと育っていると感じていただいています。さらに豊かな心の育成について、全職員、そして学校教育全体で進めてまいります。

③ 安全・安心、信頼される学校

安全管理や情報発信、地域との連携について、ほとんどの職員・児童・保護者から良い評価をいただいています。児童の生活空間である校舎や校庭、通学路についての安全管理、学校の様子などの情報発信、地域との連携を引き続き進めてまいります。

【課題点に基づいた今後の方向性】

① 学習習慣の確立

「家庭学習（自主学習含む）」については個に応じた対応を進めていきます。自分で考えさせる自主学習を基本として、ICT機器も活用し、自主的に学ぶ姿勢を育みます。また、「岩手っ子家庭学習チャレンジカード」の取り組みも継続し、家庭学習の習慣化を図ります。

② 豊かな心の育成

「読書活動」については、保護者の評価が低くなっています。学校では昨年度の学校評価の結果から課題と捉え、今年度は読書時間の確保等に取り組んできましたが、さらに家読の習慣化を推進するなど引き続き取り組んでまいります。また、心の教育についても、学校教育全体を通して進めてまいります。今後も児童にとって居心地の良い学校づくりに取り組みます。

③ 基本的生活習慣の確立

保護者・職員ともに、課題と感じているのが、あいさつの励行、ネット使用（ゲーム等）時間です。来年度も、家庭と協力しながら改善を図ることが出来るよう、お便りや学年部会等で話題にしていきます。また、「早寝早起きチャレンジカード」等を利用し、客観的に生活時間が把握でき、自分で考えて改善を行えるような取り組みを引き続き行います。

令和6年度 学校教育アンケート ＜三者比較＞

A:とてもそう思う（4）　B:そう思う（3）
C:あまり思わない（2）　D:思わない（1）　とした場合の値です（中央値は2.5）

平均値

番号	質　問　内　容	児童	保護者	職員
1	お子さんは，学校で友だちと仲良く活動したり，遊んだりしていると思いますか。	3.8	3.6	3.8
2	お子さんは，みんなで学習するときの望ましい態度（忘れ物をしない，落ち着いて先生や友達の話を聞く等）が出来ていると思いますか。	3.0	2.9	3.3
3	お子さんは，授業の内容がわかっていると思いますか。	3.1	3.0	3.2
4	お子さんは，宿題や自主学習など家庭学習を進んでしていますか。	3.1	2.9	3.2
5	お子さんは，読書に親しんでいると思いますか。	3.1	2.6	3.3
6	お子さんは，まわりの人に進んであいさつをしていると思いますか。	3.3	2.9	2.5
7	お子さんは，生命を大切にする心や他人を思いやる心，善悪の判断が身についていると思いますか。	3.5	3.3	3.5
8	お子さんは，自分の良いところや友達の良いところを認めていると思いますか。	3.5	3.3	3.5
9	お子さんは，基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯など）が身についていると思いますか。	3.2	3.0	3.1
10	お子さんは，ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど，自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか。	3.1	2.8	2.8
11	お子さんは，運動に親しみ，体力が向上していると思いますか。	3.4	3.1	3.2
12	先生は，子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか。	3.7	3.3	3.3
13	英語の授業では、先生は，子どもの学習状況に合った方法で、英語に慣れ親しむ活動を取り入れてくれていると思いますか。	3.7	3.1	3.5
14	先生は，子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれていると思いますか。	3.9	3.3	3.5
15	先生は，お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか。	3.6	3.3	3.6
16	お子さんの話や授業参観や学校行事，学校・学級だよりで学校の様子がよく伝わっていますか。	3.3	3.3	3.5
17	学校は，環境が整備され，子どもたちが安全に生活できていると思いますか。	3.6	3.4	3.6

多くの項目について、良い評価をいただきました。記述では、「学年関係なく、みんな仲良く遊んでいる」「学校の様子を楽しそうに話してくれる」「家庭学習チャレンジ週間をやることで自分から進んで学習する習慣が身についた」「家で読書をする姿を目にするようになった」「普段からタブレットにふれ勉強していることがわかり、使い方もスムーズになった」等、教員の指導や、児童との関係、ご家庭との連携や協力ができているとのご意見が複数ありました。いただいたご意見を励みに、今後も岩手小児童の健やかな成長に尽力してまいります。

6、10 番が主な課題です。学校では、課題の残った項目について具体的な取組を検討してまいりますが、各ご家庭でも課題意識を共有していただき、改善へのご支援とご協力をいただけますようお願いいたします。